

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：32633

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K10641

研究課題名(和文)"Health Humanities基礎研究:領域横断的教育プログラムの開発

研究課題名(英文) Health Humanities Field Development: Developing Interdisciplinary Educational and Community Wellbeing Programs

研究代表者

井上 麻未 (INOUE, Mami)

聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号：60337293

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文):分野横断的なヘルスヒューマニティーズ(以下、HH)教育プログラムを開発することを目的とした本研究であるが、2023年より聖路加国際大学大学院看護学研究科においてHH関連3科目が新規に開講された。HH概論IとIIの2科目が本研究の成果を反映するものである。また、聖路加を研究拠点として、学際的なHHリレー講座やHH研究・学習検討会、3名の海外からの招聘研究者による公開講演会などを継続的に開催し、日本初のHHの分野横断的な展開・推進を試みる事ができた。研究成果は海外のHH事典、医学書院の『看護研究』、聖路加国際大学紀要等に論文として発表した。日本初となるHH研究書(共著)が2024年に出版される。

研究成果の学術的意義や社会的意義

患者中心の医療においてはEBM(Evidence Based Medicine)と両輪をなすNBM(Narrative Based Medicine)の実践を踏まえた全人的アプローチが不可欠である。対象を医療者全体に広げたこの新分野HHにより、幅広い関心と深い共感を持つ医療者の育成に加え、医療に関連する様々な研究領域においてEBMを補完する視点の涵養が可能となる。超高齢社会の日本では、HH教育プログラムの開発と実施が新たなシステムや価値の創造を促進する可能性を持つ。今後、HH実践を「社会的処方」として活用できれば人々の健康とウェルビーイングの向上につながり「地域共生社会」の実現に貢献しうる。

研究成果の概要(英文): This research aimed to develop a cross-disciplinary health humanities (HH) education programme, and three new HH-related courses have been offered at the Graduate School of Nursing, St. Luke's International University since 2023. Two of those courses, Introduction to HH I and II, reflect the results of this research. In addition, with St. Luke's serving as a research base, an interdisciplinary HH lecture series, HH research and study meetings, and public lectures by three overseas guest researchers were held for the purpose of developing and promoting HH across disciplines for the first time in Japan. Research results have been published as articles in the Palgrave Encyclopedia of Health Humanities, Igaku Shoin's Journal of Nursing Research, the Bulletin of St. Luke's International University and other publications. Japan's first edited collection of HH research (co-authored) will also be published in 2024.

研究分野：英文学、ヘルスヒューマニティーズ

キーワード：ヘルスヒューマニティーズ メディカルヒューマニティーズ ナラティブメディスン 領域横断的教育プログラム 文章創作

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

日本は地域包括ケアシステムの先の「健康先進国」実現を見据え、新たな「社会システム」としての保健医療の再構築という目標を掲げた（厚生労働省「保健医療 2035」）。さらに、中央教育審議会の「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」において日本が課題先進国として今後世界に先んじて課題解決に取り組むための高等教育のミッションが明示されている。これらの目標達成のためには、保健医療のみならず様々な研究領域をダイナミックに融合する領域横断的な研究・教育が必須である。そこで、本研究は、従来の医学・看護、保健の分野と人文学・社会科学・芸術との創造的融合を図り、日本における新たな学際的領域（ヘルスヒューマニティーズ）を推進し、医療保健、さらに介護などの対人援助領域などの領域に、領域横断的な教育プログラムを開発することを目指した。

世界的な研究動向として、1960年代に医学教育分野からスタートした米国発のメディカルヒューマニティーズ（医療人文学）から端を発した、新分野、ヘルスヒューマニティーズ（以下、HH）が十数年前から急速に発展を遂げ、現在、医師に限らず医療者やヘルスケアに関わる人々全体を対象とし、世界的・学際的な運動となり欧米を中心に展開されている。しかし、日本でのHHの導入は未だ大きく遅れている現状にあった。そこで、本研究では看護学部/看護学研究科・公衆衛生大学院・聖路加国際大学からなる大規模なリソースを有する聖路加を研究拠点として、HHを日本で初めて分野横断的に展開・推進することを試みることにした。新分野HHの研究により得られる知見は、医療・看護・介護福祉分野等の対人支援職の教育や研究を変革、促進し、患者や家族・医療看護および介護福祉職など、国民全体の健康とウェルビーイングに大きく貢献しようと考えた。HHの推進が、我が国の保健医療制度の変革を促し持続可能な社会の実現を目指すことにつながる可能性があると考え、創造性に満ちたHH研究を開始した。

2. 研究の目的

新分野HHの目的は、学際的な知識や視点を生かし、①教育実践による医療者の教育と研究の推進・変革、②臨床実践により患者・医療者双方の健康とウェルビーイングを維持・向上することである。患者中心の医療においてはEBM（Evidence Based Medicine）と両輪をなすNBM（Narrative Based Medicine）の実践を踏まえた全人的アプローチが不可欠である。対象を医師に限らず医療者全体に広げたこの新分野により、幅広い関心および深い共感を持つ医療者の育成、実践の促進に加え、医療に関連する様々な研究領域においてEBMを補完する視点の涵養が可能となる。今後、超高齢社会で保健医療の「発展形」が求められる日本では、このHHに基づく新たな教育プログラムの開発と実施が「新たな価値の創造」、さらに「社会システム」構築を促進する可能性を持つ。そこで、本研究は、欧米で展開されているHHの日本における展開の可能性を探ること、そして分野横断的なHH教育プログラムを開発することを目的とした。

3. 研究の方法

第一段階として、国内外の教育的実践、また臨床的実践、HHの先行研究を収集し、HH研究の指導的立場にある研究者へのヒアリングを行い、HHが大学の専門教育課程で既に定着している英米の実態調査と分析を行った。これらをもとに、総合的な概念枠組を作成し、日本においてこの新領域が形成されるための諸条件を設定し、成立要件を探った。第二段階として、HH教育開始のための試行プログラムを作成した。さらに、国内でのHH創設、展開を目指してHHレクチャーシリーズを開催し、HH学習研究・検討会も行った。併せて英国、米国のHH研究の第一人者、Prof. Paul Crawford、米国のDr. Erin Lamb、実践家のDr. Lizzie Burnsの三名を招聘してのHH公開講演会の企画案を策定した。第三段階として、上記の試行プログラムを完成させ聖路加国際大学看護学研究科でHH関連3科目を新規開講した。3年間の研究の総括として、日本におけるHH創設と今後の発展に向け、Prof. Paul Crawford、Dr. Erin Lamb、Dr. Lizzie Burnsを招聘し、聖路加国際大学で2回の公開講演会を開催した。

4. 研究成果

分野横断的なHH教育プログラムを開発することを目的とした本研究であるが、聖路加国際大学大学院看護学研究科では2023年よりヘルスヒューマニティーズの関連3科目が新規に開講された。人間の経験の多様性と複雑さを理解し、創造的かつ批判的な志向を養い、患者中心の医療に向けた全人的なアプローチを学ぶ「HH概論I」、想像力と表現力の育成を目標とし体験プログラムを通して具体的な実践を学ぶ「HH概論II」、病いや障害、医療の体験を持つ当事者の語り（ナラティブ）に注目し、当事者の視点で医療やケアを捉え直すことに重点を置く「健康と病い

の語り概論」の3科目である。本研究の代表者が科目責任者を務める「HH 概論 I」および「HH 概論 II」の2科目が本研究の研究成果を反映するものである。また、聖路加を研究拠点として、日本で初めてHHの分野横断的な展開・推進を試みる事ができた。具体的には組織内でのHH学習・研究検討会や学際的な公開HHリレー講座、HH公開講座を継続的に開催した。

最終年度には2023年11月11日に第1回目の公開講演会「The Health Humanities and Creative Public Health (英国におけるパブリックヘルスの実践)」を英国からDr Paul Crawford, Dr Lizzie Burnsを招聘し実施した。さらに、第2回目として2024年1月11日に公開講演会「Ageism and Health Justice: Health Humanities Education and Research Fundamentals and Trends (エイジズムと健康におけるソーシャルジャスティス: ヘルスヒューマニティーズの教育・研究方法論の基礎とトレンド)」を米国からDr Erin Gentry Lambを招聘し開催した。両講演会では、欧米の最新の研究や実践についての英語による講演と研究交流を行った。

研究成果は“Palgrave Encyclopedia of the Health Humanities” (井上)、医学書院の『看護研究』のHH特集号 (井上、ハフマン)、聖路加国際大学紀要等 (井上、ハフマン) に論文としてまとめた。また、日本エンドオブライフケア学会での招待講演 (足立)、日本医学哲学・倫理学会での学会発表を行った (足立)。さらに最終年度に日本初となるHH研究書を多領域の十数名の研究者と共著で執筆した。本書は2024年度に出版される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 井上麻未	4. 巻 Vol.55 No.6
2. 論文標題 Health Humanitiesとは	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 看護研究	6. 最初と最後の頁 539-551
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 井上麻未、木下康仁、射場典子	4. 巻 Vol.55 No.6
2. 論文標題 大学院看護学研究科新設科目 「ヘルスヒューマニティーズ3科目」の概要と意義	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 看護研究	6. 最初と最後の頁 572-585
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Jeffery Huffman, 井上麻未（翻訳）	4. 巻 Vol.55 No.6
2. 論文標題 Health Humanitiesの教育と実践におけるグローバルトレンド	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 看護研究	6. 最初と最後の頁 564-571
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 井上麻未、糟谷知香江	4. 巻 Vol.9
2. 論文標題 看護学部における文章創作の試行授業"Creative Writing with Visual Imagery -新たな教育プログラムに向けて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 聖路加国際大学紀要	6. 最初と最後の頁 99-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34414/00016729	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 足立智孝
2. 発表標題 闘病記から紐解くエンドオブライフ
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第6回学術集会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 足立智孝
2. 発表標題 Medical HumanitiesからHealth Humanitiesへの展開に関する一考察
3. 学会等名 第12回日本医学哲学・倫理学会大会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	足立 智孝 (ADACHI Tomotaka) (70458636)	亀田医療大学・看護学部・教授 (32529)	
研究分担者	Huffman Jeffrey (HUFFMAN Jeffrey) (70611242)	聖路加国際大学・大学院看護学研究科・准教授 (32633)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	木下 康仁 (KINOSHITA Yasuhito)		
研究協力者	菊田 文夫 (KIKUTA Fumio)		
研究協力者	伊藤 高章 (ITO Takaaki)		
研究協力者	芦田 ルリ (ASHIDA Ruri)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 The Health Humanities and Creative Public Health	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 Ageism and Health Justice: Health Humanities Education and Research Fundamentals and Trends	開催年 2023年～2023年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関